

2026/2/23

高 39 期

株式会社アマダ

技術士（情報工学部門）

天野兼秀

## 中学Ⅱ学年 職業講話（いずみ会）所感

57歳のエンジニアとして、「正解のない時代を正解にして生きる力」をテーマに講演させていただきました。冒頭では「キリンを冷蔵庫に入れるにはどうすればよいか」というクイズを通して、物事には必ずしも一つの正解があるわけではないことを体感してもらいました。続いて、私が勤務する企業の紹介や、組み込みソフトウェア開発という仕事の内容についてお話しし、技術が社会を支えていることや、仕事の面白さについてもお伝えしました。そのうえで、VUCAと呼ばれる予測困難な時代背景や、「将来、子どもたちの65%が今は存在していない職業に就く」という予測を紹介し、企業で働くことだけが“働く”ではないという視点を共有しました。また、私自身の夢として、子どもたちに技術やものづくりの楽しさを伝える塾「がらくた研究所」を構想していることにも触れました。また途中「やりたいこと100連発」のワークを行い、自分自身の物差しで未来を考える大切さについてお話ししました。

講演当日、積極的な質問が出るわけでもなく、全体としてとても落ち着いた雰囲気、正直なところ「少しおとなしい世代のかな」という印象を抱いたまま帰路につきました。私の時代は、良い意味でもう少し“やんちゃ”で、突飛なことを言う生徒も多かった記憶があります。そのため、どこまで伝わったのだろうかという思いも、心のどこかに残っていました。

しかし、137名分の感想文を拝読して、その印象は一変しました。そこには、私が想像していた以上に遥かに深く、真剣に言葉を受け止め、自分の未来と重ね合わせて考えてくれている生徒達の姿がありました。「天野さんのように大人になっても学び続けたい」という一文を読んだときは、思わず胸が熱くなりました。自分が日々続けてきたことが、誰かの目には希望として映っていたのだと知り、静かに涙が出そうになりました。「職業に対するイメージが大きく変わりました」という感想からは、これまでの固定観念を少しでも揺らすことができたのではないかと感じました。「夢を語る姿が印象に残った」という言葉も多く寄せられました。大人が本気で夢を語る姿は、もしかすると日常の中ではあまり目にすることがないのかもしれませんが。私の構想する「がらくた研究所」に興味を持ってくれた生徒が多かったことも、大きな励みになりました。あの時間が、誰かの心のどこかに種をまくことができたのなら、講演をさせていただいた意味があったと感じています。

一方で、「良い大学に行けば良い仕事ができると親に言われている」という声には、今の中学生が抱える現実も垣間見ました。だからこそ、自分の物差しで未来を考えてほしいという思いを、これからも伝え続けたいと感じています。

「天野さんのようなパワフルな大人になりたい」という言葉もありました。自分では特別パワフルなつもりはないですが、挑戦をやめず、夢を語り続ける姿勢が誰かの背中を押せたのであれば、これほど光栄なことはありません。

講演中は静かだった生徒たちが、実は心の中でこんなにも深く考えてくれていたことを知り、今回一番

学ばせてもらったのは私自身だったのかもしれませんが。

感想の中には、「就職した後も資格を取り続けるモチベーションは何ですか？」という質問がありました。私の答えは二つあります。一つは自尊心、もう一つは家族の存在です。

国家資格である技術士の取得を、私は一度あきらめかけていました。そんな私を奮い立たせたのは、当時5歳になったばかりの長男の一言でした。

手をつなぎながらの散歩の途中、彼は突然こう尋ねてきました。

「パパ、おおきくなったら“なに”になりたい？」

40歳を過ぎた私に向けられた、まっすぐな問いでした。私は少し戸惑いながらも、

「立派なエンジニアになることかな」

と答えると、彼は続けてこう聞き返しました。

「“りっぱ”ってなあに？」

私はしばらく考え、

「世の中の役に立つってことかな」

と答えました。その瞬間、自分自身に問いが返ってきました。自分は本当に胸を張ってそう言えるだろうか。世の中の役に立っていると言い切れるだろうか。その問いが、再び勉強を始めるきっかけになったのです。あきらめかけていたあの技術士になろう。自分の力をもっともっと磨き、社会に自分の能力をアピールしようじゃないか！少々不純な動機だったかもしれませんが、そこから学び直しを始め、3年目のチャレンジでなんとか資格を取得できたのです。技術士として世に名乗れるようになるまで、試験を最初に受けてから早15年の月日が経過していました。

大人になっても問いは続きます。そして、その問いに向き合い続けることこそが「学び続ける」ということなのではないでしょうか。もし今回の講演が、誰かの中に小さな問いを残せたのだとしたら、それは私にとって何よりの喜びです。

(参考：講話中に紹介したサイト)

スモールグッドビジネスを立ち上げるコミュニティ「Fukusen」

<https://fukusen.org/farm#top>

常に新規事業アイデアコンテストを実施している「Wemake」

<https://www.wemake.jp/>

夢を語る場所「イノベーションスナックみらぼ」

<https://snack-melabo.com/>